

※令和3年度以前入学生用

大阪府立淀商業高等学校 福祉ボランティア科3年生（令和4年度）

教科	福祉	科目	社会福祉基礎	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「社会福祉基礎」（実教出版）						
副教材等	「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規） 「介護福祉士重要過去問 完全マスター問題集」（ナツメ社）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

超高齢社会を迎えて、私たちの日常生活に関わる福祉的な諸問題について考え、社会福祉の意義や役割について理解を深めていきます。3年生では、主に生活を支える社会保障制度について学ぶことで、介護福祉士として必要な専門的な介護技術、知識を身に付けます。

- ①日常生活の福祉的な問題に興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。
- ②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。
- ③介護福祉士の合格をめざして主体的に家庭学習を行い、単に知識を身に付けるだけでなく、実践的で体験的な学習活動で得た知識や技術を活用して、介護現場の状況に応じた判断力と実践力を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	社会福祉に関心を持ち、福祉社会に向けた課題に主体的に取り組むとともに、幅広い視野と福祉観や社会福祉の向上を図る実践的な態度を身に付けている。	社会福祉に関する諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	社会福祉に関する基礎的な技術を身に付け、福祉に関する諸活動に対応することをめざしてその技術を適切に活用している。	現代社会における社会構造の変容や特色について理解し、社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、社会福祉の意義や役割を理解している。
評 価 方 法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート	・グループワーク ・ワークシート ・発表	・グループワーク ・ワークシート	・定期考査 ・小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第2編 第2章 日本における社会福祉	第2編 社会福祉の歴史と福祉社会の課題 第2章 日本における社会福祉 1 近代社会福祉の誕生・先覚者の活躍 2 「地域福祉」の始まり 3 社会事業への着手 4 戦後の混乱期から福祉3法体制の確立へ 5 高度経済成長時代と社会福祉六法 6 福祉改革とゴールドプラン	○			○	a: 社会福祉の歴史について興味や関心を持ち、各制度が成立した社会背景、理念について探究しようとしている。 b: 各制度が成立した社会背景、理念について思考を深め判断し、適切に表現している。 c: 社会福祉の歴史や時代背景に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 日本における社会福祉の歴史や社会的背景、理念を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
	第3編 第1章 生活を支える社会福祉・社会保障制度	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度 第1章 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 1 社会保障制度の意義と役割 2 社会福祉と社会保障制度 3 社会福祉を推進する機関	○			○	a: 私たちの生活を守る社会福祉と社会保障制度について興味や関心を持ち、制度の意義と役割について探究しようとしている。 b: 社会保障制度の時代の変化による課題について思考を深め、適切に表現している。 c: 社会保障制度の時代の変化に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 社会保障制度の意義と役割、社会福祉を推進する国の行政体制について理解している。	
	第3編 第5章 生活支援のための公的扶助	第5章 生活支援のための公的扶助 1 生活保護 2 生活保護の種類と基準 3 生活保護の実施運営体制と最近の動向 4 生活資金の支援制度・ホームレス自立支援	○	○	○	○	a: セーフティネットとしての生活保護について興味や関心を持ち、意義と役割について探究しようとしている。 b: 今後、求められる生活保護制度のあり方について思考を深め、適切に表現している。 c: 生活保護制度の課題に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 生活保護制度の目的、基本原理、基本原則、実施運営体制について理解している。	

※令和3年度以前入学生用

第3編 第4章 高齢者福祉	第4章 高齢者福祉 1 人口の高齢化と高齢者福祉 2 高齢者の健康保持と社会参加	○	○		○	○	a: 少子高齢化に興味や関心を持ち、人口の高齢化に伴って生じる福祉的な課題について探究しようとしている。 b: 少子高齢化に伴って生じる福祉的な課題について思考を深め、適切に表現している。 c: 高齢者の健康保持や社会参加について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 高齢者の健康保持や社会参加の促進に向けた様々な施策について理解している。	・ 学習状況の観察 ・ グループワーク ・ ワークシート ・ 発表 ・ 定期考査 ・ 小テスト
	3 介護保険制度(1) 4 介護保険制度(2) 5 高齢者の在宅サービス(1) 6 高齢者の在宅サービス(2) 7 認知症ケア 8 介護保険施設	○			○	○	a: 介護保険制度について、興味や関心を持ち、その意義と役割について探究しようとしている。 b: 利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた介護保険サービスを考察し、適切に提案することができる。 c: 介護保険制度について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 介護が必要な高齢者の生活を支える介護保険制度のしくみやサービスの種類について理解している。	
	9 老人福祉施設その他 10 高齢者の地域生活を支える各種サービス 11 高齢者福祉の将来～地域包括ケアの実現へ～	○	○	○		○	a: 地域包括ケアシステムについて興味や関心を持ち、その意義と役割について探究しようとしている。 b: 地域包括ケアの実現に向けた地域社会のあり方について考察し、提案することができる。 c: 高齢者の生活を支える地域福祉について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 介護保険制度以外の高齢者の生活を支える様々な社会資源について理解している。	

※令和3年度以前入学生用

2 学 期	第3編 第6章 生活を支える社会福祉・社会保障制度	第6章 国民生活を支える社会保障制度 1 日本の社会保障制度の枠組み 2 健康保険・国民健康保険 3 高齢者医療制度等	○	○	○	○	a: 私たちの安心した生活を支える制度の一つである医療保険制度に興味や関心を持ち、その意義と役割を探究しようとしている。 b: 少子高齢化に伴って生じる医療保険制度の課題について、思考を深め、適切に表現している。 c: 医療保険制度の課題に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 相互扶助の精神にもとづいたわが国の医療保険制度のしくみについて理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
		4 公的年金制度の体系 5 公的年金の給付	○	○	○	○	a: 私たちの老後の生活を支える公的年金制度について興味や関心を持ち、その意義と役割について探究しようとしている。 b: 少子高齢化に伴って生じる公的年金制度の課題について、思考を深め、適切に表現している。 c: 公的年金制度の課題に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 世代間の支え合いを基本とする公的年金制度のしくみについて理解している。	
		6 雇用保険と労災保険	○			○	a: 労働に関する雇用保険と労働者災害補償保険について、興味や関心を持ち、その意義と役割について探究しようとしている。 b: 雇用保険と労働災害補償保険の現状と課題について、思考を深め、適切に表現している。 c: 労働に関する課題について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 労働に関する雇用保険と労働者災害補償保険のしくみについて理解している。	

※令和3年度以前入学生用

第3編 第3章 障がい者福祉	第3章 障がい者福祉 1 障がい者福祉とは 2 身体障がい者の現状と課題 3 身体障がい者福祉の推進 4 障がい者の生活支援	○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ 	a: 身体障がい者に関する福祉サービスについて興味や関心を持ち、その現状と課題を追求しようとしている。 b: 身体障がい者の現状と課題について、思考を深め、適切に表現している。 c: 身体障がいの福祉サービスに関する課題について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 身体障がい者に関する福祉サービスについて理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
	5 知的障がい者の現状と課題 6 知的障がい者の在宅支援と施設の役割 7 障がい者グループホーム 8 発達障がいをめぐる多様な課題と支援	○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○	a: 知的障がい者や発達障がい者に関する福祉サービスについて興味や関心を持ち、その現状と課題を追求しようとしている。 b: 知的障がい者や発達障がい者の現状と課題について、思考を深め、適切に表現している。 c: 知的障がいの福祉サービスに関する課題について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 知的障がい者や発達障がい者に関する福祉サービスについて理解している。	
	9 精神保健と精神障がい者 10 精神障がい者の支援－長期入院から地域生活支援へ 11 障がい者福祉の今後	○	 ○ ○	 ○ 	○	a: 精神障がい者に関する福祉サービスについて興味や関心を持ち、その現状と課題を追求しようとしている。 b: 精神障がい者の現状と課題について、思考を深め、適切に表現している。 c: 精神障がいの福祉サービスに関する課題について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 精神障がい者に関する福祉サービスについて理解している。	

※令和3年度以前入学生用

3 学 期	国 家 試 験 問 題 社 会 の 理 解	国家試験問題: 社会の理解					a: 介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである社会の理	・ 学習状況 の観察 ・ ワークシート ・ 定期考査 ・ 小テスト
		1 生活と福祉	○			○	解について、興味や関心を持っ	
		2 社会保障制度			○	○	て取り組んでいる。	
		3 介護保険制度		○	○	○	b: 国家試験の事例問題につい	
		4 障がい者自立支援制度	○			○	て、3年間学習してきた知識や	
		5 介護実践に関連する諸制度			○	○	c: 国家試験問題について過去問題を収集・分析し、適切に活用している。 d: 介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである社会の理解について、専門的な知識を理解している。	

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和3年度以前入学生用

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	4単位	年次	3年次
使用教科書	こころとからだの理解（実教出版）						
副教材等	「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規） 「介護福祉士重要過去問 完全マスター問題集」（ナツメ社）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

介護を実践する際に必要な「こころとからだのしくみ」について勉強をしていきます。3年生では、特に高齢期の症状・疾患について特徴を学び、留意すべき点や保健医療職との連携について理解を深めていき、介護福祉士として必要な専門性を身に付けます。

- ①人間の「こころのしくみ」や「からだのしくみ」に興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。
- ②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。
- ③介護福祉士の合格をめざして主体的に家庭学習を行い、単に知識を身に付けるだけではなく、実践的で体験的な学習活動で得た知識や技術を活用して、介護現場の状況に応じた判断力と実践力を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護実践に適切に活用できる能力を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	人間の「こころのしくみ」や「からだのしくみ」について関心をもち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者などに多く見られる疾病や機能低下が及ぼす日常生活での諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要なこころとからだについての基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいてその技術を適切に活用している。	人間の「こころのしくみ」や「からだのしくみ」に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳を守る介護の基本を理解している。
評 価 方 法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・学習プリント ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・学習プリント ・発表	・実技演習 ・グループワーク ・ワークシート ・学習プリント ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・学習プリント ・発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第3編 人間の成長と発達の基礎的理解	第2章 発達とは 1 老年期の発達と成熟 2 加齢に伴う心身の変化と特徴 3 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響 4 高齢者の心理				○ ○ ○	a: 高齢者の老化の特徴について関心をもち、共感的な理解に立って高齢者の心理を探究しようとしている。 b: 加齢に伴う心身の変化について思考を深め判断し、日常生活における影響を適切に表現している。 c: 加齢に伴う心身の変化と特徴に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: エリクソンの心理学的発達モデルやからだを守るための恒常性を維持する4つの力について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
		第3章 高齢者と健康 1 高齢者の疾病と生活上の留意点 2 保健・医療職との連携	○	○		○ ○	a: 高齢者の疾病について関心をもち、その症状や特徴を探究しようとしている。 b: 高齢者のからだの不調の訴えについて思考を深め判断し、その原因と特徴を適切に表現している。 c: 保健と医療職との連携に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 高齢者の症状と疾病の特徴について理解している。	

※令和3年度以前入学生用

	第5編 障がいの理解	第1章 障がいの基礎的理解 1 障がいの概念 2 障がい者福祉の基本理念	○	○	○	○	a: 障がい者福祉について興味をもち、よりよい支援方法を探究しようとしている。 b: 障がい者福祉の基本理念について思考を深め判断し、適切に表現している。 c: 障がいに関する様々な資料や情報を収集し適切に活用している。 d: 障がい者関係法規、ノーマライゼーションやリハビリテーションの考え方、国際障害者年の理念について理解している。	
2学期	第5編 障がいの理解	第2章 生活機能障がいの理解 1 身体障がい ①視覚障がい ②聴覚障がい・言語障がい ③肢体不自由 ④内部障がい	○ ○ ○ ○	○ ○		○ ○ ○ ○	a: 身体障がいについて関心をもち、より良い生活支援を行うために探究しようとしている。 b: 身体障がいにおける生活上の困難について思考を深め判断し、障がいに応じた支援方法を適切に表現している。 c: 身体障がいの種類について様々な資料や情報を収集し適切に活用している。 d: 身体障がいの種類とその原因や医学的な基礎知識について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
		2 精神障がい 3 知的障がい	○ ○	○	○	○ ○	a: 精神障がいと知的障がいについて関心をもち、より良い生活支援を行うために探究しようとしている。 b: 精神障がいと知的障がいにおける生活上の困難について思考を深め判断し、障がいに応じた支援方法を適切に表現している。 c: 精神障がいや知的障がいについて様々な資料や情報を収集し適切に活用している。 d: 精神障がいや知的障がいの種類とその原因や医学的な基礎知識について理解している。	

※令和3年度以前入学生用

		発達障がい 5 高次脳機能障がい 6 難病	○	○		○	a:発達障がい、高次脳機能障がい、難病について関心をもち、より良い生活支援を行うために探究しようとしている。 b:発達障がい、高次脳機能障がい、難病における生活上の困難について思考を深め判断し、障がいに応じた支援方法を適切に表現している。 c:発達障がい、高次脳機能障がい、難病について様々な資料や情報を収集し適切に活用している。 d:発達障がい、高次脳機能障がいの種類や医学的な基礎知識について理解している。	
	第2編 生活支援に必要なこととからだの理解	第2章 生活に関することとからだの特徴 1 感染症に関することとからだのしくみ	○	○	○	○	a:感染症について関心をもち、感染予防に向けた取り組みを探究しようとしている。 b:高齢者施設で発生しやすい感染症について思考を深め判断し、その予防策を適切に表現している。 c:介護職員が感染源にならない取り組みについて資料や情報を収集し適切に活用している。 d:感染症に関する基礎知識やスタンダード・プリコーションについて理解している。	
		2 終末期に関することとからだのしくみ	○	○	○	○	a:生きることと死ぬことについて関心をもち、専門職として終末期の関わり方を探究しようとしている。 b:終末期のケアについて思考を深め、要介護者とその家族の関わり方を適切に表現している。 c:終末期ケアについて資料や情報を収集し適切に活用している。 d:死にゆく人の心理過程や死後の身体的な変化について理解している。	

※令和3年度以前入学生用

		3 緊急時に関するところとからだのしくみ	○	○	○	○	a: 緊急時に関する対応方法について関心をもち、専門職として必要な知識や態度を探究しようとしている。 b: 専門職として緊急時の対応について思考を深め判断し、適切に表現している。 c: 緊急時の対応について資料や情報を収集し適切に活用している。 d: 緊急時の心身の状態や緊急時の対応方法について理解している。	
3 学期	国家試験問題 ところとからだのしくみ	国家試験問題: ところとからだのしくみ 1 ところのしくみの理解 2 からだのしくみの理解 3 身じたくに関連したところとからだのしくみ 4 移動に関連したところとからだのしくみ 5 食事に関連したところとからだのしくみ 6 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ 7 排泄に関連したところとからだのしくみ 8 睡眠に関連したところとからだのしくみ 9 死にゆく人のところとからだのしくみ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つであるところとからだのしくみについて、関心を持って取り組んでいる。 b: 国家試験の事例問題について、3年間学習してきた知識や技能を使って思考を深め、適切に表現している。 c: 国家試験問題について過去問題を収集・分析し、適切に活用している。 d: 介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つであるところとからだのしくみについて、専門的な知識を理解している。	・学習状況の観察 ・ワークシート ・定期考査 ・小テスト

※令和3年度以前入学生用

	国家試験問題 発達と老化の理解	国家試験問題:発達と老化の理解 1 人間の成長と発達の基礎的理解 2 老年期の発達と成熟 3 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 4 高齢者の健康	○	○	○	a:介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである発達と老化の理解について、関心を持って取り組んでいる。 b:国家試験の事例問題について、3年間学習してきた知識や技能を使って思考を深め、適切に表現している。 c: 国家試験問題について過去問題を収集・分析し、適切に活用している。 d:介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである発達と老化の理解について、専門的な知識を理解している。
	国家試験問題 障がいの理解	国家試験問題:障がいの理解 1 障がいの基礎的理解 2 障がいの医学的側面の基礎的知識 3 連携と協働 4 家族への支援	○	○	○	a:介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである障がいの理解について、関心を持って取り組んでいる。 b:国家試験の事例問題について、3年間学習してきた知識や技能を使って思考を深め、適切に表現している。 c: 国家試験問題について過去問題を収集・分析し、適切に活用している。 d:介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである障がいの理解について、専門的な知識を理解している。

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和3年度以前入学生用

教科	福祉	科目	生活支援技術 (分野：生活支援技術)	単位数	4単位	年次	3年次
使用教科書	「生活支援技術」 (実教出版)						
副教材等	「見て覚える介護福祉士国試ナビ」 (中央法規) 「介護福祉士重要過去問 完全マスター問題集」 (ナツメ社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

介護を必要とする人の自立した生活を支援するための安心・安全な介護技術を学び、施設実習やボランティア活動を通じて実践力を高めていきます。3年生では、利用者一人ひとりの状態や生活状況に応じた具体的な介護場面を想定した介護技術を学ぶことで、介護福祉士として必要な実践的な介護技術と知識を育みます。

- ①介護を必要とする人の生活場面に応じた介護技術の方法について興味や関心を持って授業に取り組み、介護技術の演習やグループワークなど、積極的に参加しましょう。
- ②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。
- ③介護福祉士の合格をめざして主体的に家庭学習を行い、単に知識を身に付けるだけではなく、実践的で体験的な学習活動で得た知識や技術を活用して、介護現場の状況に応じた判断力と実践力を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	介護を必要とする人の生活場面に応じた介護技術の方法について関心を持ち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者など介護を必要とする人の生活における諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要な尊厳の保持や自立支援の観点に立った基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいて安全に支援できる技術を適切に活用している。	介護を必要とする人を生活の観点からとらえた基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳保持や自立支援による適切かつ安全な介護の基本を理解している。
評 価 方 法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・実技演習 ・グループワーク ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	自立に向けた生活支援技術	第2編 自立に向けた生活支援技術 第9章 レクリエーションの支援 1 レクリエーションの意義と目的 2 レクリエーションにおける介護技術 3 介護現場におけるレクリエーションの実践	○	○	○	○	a: レクリエーションに興味や関心を持ち、生きがいや自己実現、QOLの向上につながるレクリエーションについて探究しようとしている。 b: 利用者の状態や状況に応じたレクリエーションを考察し、介護従事者として必要な対応について表現することができる。 c: 班で1つのレクリエーションを考え、介護場面における介護従事者としての支援方法を身に付けている。 d: レクリエーションの意義や介護予防における留意点を理解している。	・学習状況の観察 ・学習プリント ・ワークシート ・グループワーク ・実技演習 ・定期考査
2学期		第3編 終末期・緊急時の介護 第1章 終末期の支援 1 終末期ケアの意義と介護の役割 2 終末期における介護技術 第2章 緊急時・災害時の支援 1 緊急時における対応 2 災害時における安全対策	○	○	○	○	a: 終末期や緊急時の介護に興味や関心を持ち、その意義と介護従事者としての役割について探究しようとしている。 b: 終末期や緊急時の介護の在り方について思考を深め、適切に表現している。 c: 終末期や緊急時の介護に関する基礎的な知識を踏まえ、最期までその人らしく生きられるよう支援するための技術や緊急事態における対応や応急処置に関する技術を身に付けている。 d: 尊厳を保持した終末期の介護や日常生活における事故の予防、終末期や緊急時の介護の在り方や対応について理解している。	・学習状況の観察 ・ワークシート ・グループワーク ・定期考査

※令和3年度以前入学生用

3 学 期	国 家 試 験 問 題 生 活 支 援 技 術	国家試験問題: 社会の理解					a: 介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである生活支援	・学 習 状 況 の観察 ・ワークシート ・定期考査
		1 生活支援	○			○	技術について、興味や関心を持って取り組んでいる。	
		2 自立に向けた居住環境の整備			○	○	b: 国家試験の事例問題について、3年間学習してきた知識や	
		3 自立に向けた身じたくの介護		○		○	技能を使って思考を深め、適切に表現している。	
		4 自立に向けた移動の介護		○		○	c: 国家試験問題について過去問題を収集し分析して、適切に活用している。	
		5 自立に向けた食事の介護		○		○	d: 介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである生活支援	
		6 自立に向けた入浴・清潔保持の介護		○		○	技術について、専門的な知識を理解している。	
		7 自立に向けた排泄の介護		○		○		
		8 自立に向けた家事の介護		○		○		
		9 自立に向けた睡眠の介護		○		○		
		10 終末期の介護		○		○		

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和3年度以前入学生用

教科	福祉	科目	生活支援技術 (分野：医療的ケア)	単位数	4単位	年次	3年次
使用教科書	「生活支援技術」 (実教出版)						
副教材等	「改訂介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」 (実教出版) 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」 (中央法規) 「介護福祉士重要過去問 完全マスター問題集」 (ナツメ社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

医療的ケアを必要とする人の自立した生活を支援するための安心・安全な医療的ケアを学びます。3年生では、演習や実技テスト、筆記テストなどを通じて、医療的ケアを必要とする利用者に対して安全で的確な喀痰吸引、経管栄養など介護福祉士として必要な専門的な知識や技術を身に付けます。

①医療的ケアの方法について興味や関心を持って授業に取り組み、医療的ケアの演習やグループワークなど、積極的に参加しましょう。

②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

③介護福祉士の合格をめざして主体的に家庭学習を行い、単に知識を身に付けるだけではなく、実践的で体験的な学習活動で得た知識や技術を活用して、介護現場の状況に応じた判断力や実践力を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	医療的ケアを必要とする人やその医療的ケアの方法について関心を持ち、医療を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者など医療的ケアを必要とする人の生活における諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	医療的ケアを実践する際に必要な尊厳の保持の視点のもと基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいて安全に提供できる技術を適切に活用している。	医療的ケアを必要とする人を生活の観点からとらえた基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳を保持した適切かつ安全な医療的ケアの基本を理解している。
評 価 方 法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・実技テスト ・実技演習 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・発表
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学 期	第Ⅱ部 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引	第Ⅱ部 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引 第3章 介護職員等による喀痰吸引のケア実施の手引き ①口腔内(通常手順) ②鼻腔内(通常手順) ③気管カニューレ内部(通常手順)	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:安全で正確な口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部における喀痰吸引の実施手順について探究しようとしている。 b: 口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部における喀痰吸引の手順の違いについて思考を深め、適切に表現している。 c:口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部における喀痰吸引の実施手順について、安全で適切に提供できる技術を身に付けている。 d:口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部における喀痰吸引のケア実施の手順について理解している。	・学 習 状 況 の観察 ・ワークシート ・実技演習 ・実技テスト ・定期考査
2 学 期		第Ⅲ部 高齢者および障がい児・者の経管栄養 第1章 高齢者および障がい児・者の経管栄養概論 1 消化器のしくみとはたらき 2 消化・吸収とよくある消化器の症状 3 経管栄養とは 4 注入する内容に関する知識 5 経管栄養実施上の留意点について 6 子どもの経管栄養について 7 経管栄養に関する感染と予防 8 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 9 経管栄養により生じる危険、事後の安全確認 10 急変・事故発生時の対応と事前対策	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:経管栄養を利用する当事者や家族の気持ちやその気持ちに寄り添った対応方法について探究しようとしている。 b:経管栄養のしくみと実施上の留意点について思考を深め、適切に表現している。 c:経管栄養により生じる主な危険の種類や危険防止に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:消化器系のしくみや経管栄養で使用される栄養剤の種類について理解している。	・学 習 状 況 の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・確認テスト

※令和3年度以前入学生用

2 学 期		第2章 高齢者および障がい児・者の経管栄養実施手順解説 1 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2 経管栄養の技術と留意点 3 経管栄養に必要なケア 4 報告および記録	○	○	○	○	a:経管栄養実施にともなう利用者の身体変化について、探究しようとしている。 b:経管栄養実施前の利用者の準備（体位・姿勢・プライバシーの確保）について思考を深め、適切に表現している。 c:経管栄養に関する報告と記録について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:・経管栄養で用いる器具や器材のしくみと清潔保持の方法について理解している。 ・経管栄養の実施手順と経管栄養実施中の留意点を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査
3 学 期		第3章 介護職員等による経管栄養のケア実施の手引き ① 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 ②半固形化栄養剤による胃ろう(腸ろう)の経管栄養 ③ 経鼻経管栄養	○	○	○	○	a:安全で正確な胃ろう（腸ろう）、経鼻における経管栄養の実施手順について探究しようとしている。 b: 胃ろう（腸ろう）、経鼻における経管栄養の手順の違いについて思考を深め、適切に表現している。 c:胃ろう（腸ろう）、経鼻における経管栄養の実施手順について、安全で適切に提供できる技術を身に付けている。 d:胃ろう（腸ろう）、経鼻における経管栄養のケア実施の手順について理解している。	・学習状況の観察 ・ワークシート ・演技演習 ・演技テスト ・定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和3年度以前入学生用

教科	福祉	科目	介護過程	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「介護過程」(実教出版)						
副教材等	「見て覚える介護福祉士国試ナビ」(中央法規) 「介護福祉士重要過去問 完全マスター問題集」(ナツメ社)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

サービス利用者一人ひとりの自立した心豊かな生活が送れるよう支援するための介護過程について学び、施設実習を通じて実践力を高めていきます。3年生では、具体的な介護場面を想定した事例を使ってケアプランを作成することで、介護福祉士として必要な専門的な介護技術、知識を身に付けます。

- ①サービス利用者主体の介護過程の展開に興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。
- ②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。
- ③介護福祉士の合格をめざして主体的に家庭学習を行い、単に知識を身に付けるだけではなく、実践的で体験的な学習活動で得た知識や技術を活用して、介護現場の状況に応じた判断力と実践力を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	サービス利用者主体の介護過程の展開について関心をもち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者などに多く見られる疾病や機能低下が及ぼす日常生活での諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	サービス利用者に応じたよりよい介護の提供のために必要な介護過程の基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいてその技術を適切に活用している。	サービス利用者に応じた介護過程の展開に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳の保持や自立生活支援の基本に立った介護過程の意義と役割を理解している。
価 方 法	・学習状況の観察 ・介護計画の作成 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・介護計画の作成 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・介護計画の作成 ・ワークシート	・定期考査 ・小テスト ・介護計画の作成 ・ワークシート

※令和3年度以前入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学 期	第3編 介護過程の 実践的展開	第3編 介護過程の実践的展開 第1章 介護過程の展開の実際 1 アセスメントの実際 2 評価の実際	○	○	○	○	a: 7月の施設実習で利用者のニーズをふまえた介護過程を実践するために、主体的に事例問題に取り組んでいる。 b: 7月の施設実習に向けて、事例を通じて、ICFに基づいたアセスメントを提案することができる。 c: 実践力を高めるために、様々な事例問題を読み取り、利用者一人ひとりに応じた課題の明確化ができる。 d: 介護福祉士として、求められる介護過程の展開方法について専門的な知識や技術について理解している。	・ 学習状況の観察 ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 介護計画の作成 ・ ワークシート ・ 発表
2 学 期	第4編 介護過程と チームアプローチ	第4編 介護過程とチームアプローチ 第1章 介護過程とチームアプローチの意義 1 チームアプローチが持つ意義 2 多職種連携	○	○	○	○	a: 介護過程における多職種連携について興味や関心を持ち、利用者一人ひとりに応じたよりよい介護過程に向けて探究しようとしている。 b: 他の専門職と連携を行うために、介護福祉士の専門的な立場から、根拠に基づいた介護を提案することができる。 c: 介護過程の多職種連携について、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 介護過程とチームアプローチの意義や重要性について理解している。	・ 学習状況の観察 ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 介護計画の作成 ・ ワークシート ・ 発表

※令和3年度以前入学生用

		第2章 介護過程とチームアプローチの実際 1 施設介護におけるチームアプローチ 2 在宅介護におけるチームアプローチ	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:施設と在宅における介護過程について関心をもち、利用者一人ひとりに応じたよりよい介護過程に向けて探究しようとしている。 b:事例問題を通じて、介護福祉士の専門的な立場から、根拠に基づいた施設介護や在宅介護を提案することができる。 c:事例問題から施設介護と在宅介護の介護過程におけるチームアプローチの違いについて読み取り、適切に活用することができる。 d:施設介護と在宅介護におけるチームアプローチの意義や重要性について理解している。	
3学期	国家試験問題 介護過程	国家試験問題:介護過程 1 介護過程の意義 2 介護過程の展開 3 介護過程の実践的展開 4 介護過程とチームアプローチ	○	○	○	○ ○ ○	a:介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである介護過程について、興味や関心を持って取り組んでいる。 b:国家試験の事例問題について、3年間学習してきた知識や技能を使って思考を深め、適切に表現している。 c:国家試験問題について過去問題を収集・分析し、適切に活用している。 d:介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである介護過程について、専門的な知識を理解している。	・学習状況の観察 ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和3年度以前入学生用

教科	福祉	科目	介護総合演習	単位数	1 単位	年次	3 年次
使用教科書	なし						
副教材等	「実習日誌」 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」 (中央法規) 「介護福祉士重要過去問 完全マスター問題集」 (ナツメ社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

介護を必要とする人の自立した生活を支援するための安心・安全な介護技術を学び、施設実習やボランティア活動を通じて実践力を高めていきます。3年生では、利用者一人ひとりの状態や生活状況に応じた具体的な介護場面を想定した介護技術を学ぶことで、介護福祉士として必要な実践的な介護技術と知識を身に付けます。

①特別養護老人ホームなどの社会福祉施設での実習に向けて、興味や関心を持って授業に取り組

み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。

②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

③介護福祉士の合格をめざして主体的に家庭学習を行い、単に知識を身に付けるだけではなく、実践的・体験的な学習活動で得た知識や技術を活用して、介護現場の状況に応じた判断力や実践力を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、統合を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	多様な介護現場での実習に向けて介護の仕事について関心を持ち、介護福祉士をめざして、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	多様な介護現場での実習に向けて、基礎的な知識と技術を統合し、介護福祉士として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	多様な介護現場での実習に向けて、介護を実践する際に必要な尊厳の保持や自立支援の観点に立った基本的な知識と技術を統合し、根拠にもとづいて安全に支援できる技術を適切に活用している。	多様な介護現場での実習に向けて、基礎的・基本的な知識や技術を統合し、高齢者や障がい者の尊厳保持や自立支援による適切かつ安全な介護の基本を理解している。
評 価 方 法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	B	c	d		
1学期	☐ 春期施設実習に向けて	Ⅰ 春期施設実習に向けて 1 介護福祉士国家試験問題を 活用した事例検討	○			○	a: 介護現場を想定した事例問題を 通じて、興味や関心を持って 取り組んでいる。 b: 利用者の心身状況に応じた 支援方法について考察し、表現 することができる。 c: 国家試験問題について過去 問題を収集・分析し、適切に活 用している。 d: 介護現場を想定した事例問 題を通じて、利用者の心身状況 に応じた介護技術や知識を身 に付けている。	・学 習 状 況 の観 察 ・グルー プワ ーク ・ワーク シー ト ・小テ スト ・定期 考査 ・発表
		2 特別養護老人ホーム・介 護老人保健施設での実習(6 月)とは 3 実習ガイダンスに向けて 4 実習の諸注意・実習目標	○	○	○ ○	○ ○	a: 6月の実習に向けて、主体的 に実習目標を立てることがで きる。 b: 6月の実習に向けて、自らが 学習したい内容と関連付けて 実習目標を考察し、表現するこ とができる。 c: 特別養護老人ホーム等の概 要について様々な資料や情報 を収集し、適切に活用してい る。 d: 特別養護老人ホーム等の意 義と役割を理解している。	
	☐ 夏期施設実習に向けて	Ⅱ 夏期施設実習に向けて 1 春期施設実習 ピアス ーパービジョンを活用した振り返 り	○	○	○		a: グループ活動を通じて主体 的かつ協働的に取り組む態度 を身に付けている。 b: ピアスーパービジョンを通 じて実習の経験を考察すると ともに言語化し、表現すること ができる。 c: 実習日誌を通じて、情報を収 集し適切に活用している。 d: 介護現場での介護技術を理 解している。	

※令和3年度以前入学生用

		2 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設での実習(7月)とは 3 ようこそ先輩～卒業生から最終実習に向けての心構えを聞く～ 4 実習ガイダンスに向けて 5 実習の諸注意・実習目標	○	○			a:介護福祉士の先輩のアドバイスを踏まえて、主体的に実習目標を立てることができる。 b:7月の実習に向けて、自らが学習したい内容と関連付けて実習目標を考察し、表現することができる。 c:特別養護老人ホーム等の概要について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護福祉士として必要とされる専門的な知識や技術を理解している。	
2学期	㊦ 3年間の施設実習を振り返る	㊦ 3年間の施設実習を振り返る(まとめ) 1 夏期施設実習 ピアスーパービジョンを活用した振り返り 2 夏期施設実習発表会	○	○	○	○	a:グループ活動を通じて主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 b:ピアスーパービジョンや発表会を通じて、実習の経験を考察するとともに言語化し、表現することができる。 c:よりよい介護に向けて実習日誌など、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護現場での利用者一人ひとりに応じた介護技術や知識を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・小テスト ・定期考査 ・発表
		3 実習での経験を活かした事例検討 4 介護技術発表会 5 3年間の施設実習について振り返り	○	○	○	○	a:グループ活動を通じて主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 b:事例を通じて、利用者のできる部分に注目した介護技術について思考を深め、適切に表現することができる。 c:よりよい介護に向けて実習日誌など、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:利用者のできる部分に注目し、潜在能力を引き出す介護技術や知識を理解している。	

※令和3年度以前入学生用

	資格取得に向けて(1)	Ⅳ 資格取得に向けて(1) 1 介護福祉士国家試験問題(総合問題) 2 国家試験合格に向けて、自らの学習方法を考える。	○	○	○	a: 介護福祉士国家試験の模擬試験(2回目)の結果をふまえて、合格に向けて自らの学習方法を考え、主体的に取り組んでいる。 b: 国家試験の総合問題について、3年間学習してきた知識や技能を使って思考を深め、適切に表現している。 c: 国家試験問題について過去問題を収集・分析し、適切に活用している。 d: 介護福祉士の国家試験の出題範囲の一つである総合問題について、専門的な知識を理解している。	
3学期	資格取得に向けて(2)	Ⅴ 資格取得に向けて(2) 1 介護福祉士国家試験問題(総合問題) 2 国家試験受験後の振り返り	○	○	○	a: 介護福祉士国家試験の模擬試験(3回目)の結果をふまえて、合格に向けて自らの学習方法を考え、主体的に取り組んでいる。 b: 国家試験の事例問題について、3年間学習してきた知識や技能を使って思考を深め、適切に表現している。 c: 国家試験受験後の振り返りを通じて、生涯学習の視点から自らの進路先での学習方法について活用することができる。 d: 施設実習での経験をふまえて、介護福祉士として必要とされる専門的な知識や技術が身に付いている。	・学習状況の観察 ・ワークシート ・小テスト ・定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単位(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

※令和3年度以前入学生用

教科	福祉	科目	介護実習	単位数	5単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	「介護実習日誌」（自主教材）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

校内の各福祉科目を通じて学んだ介護知識・介護技術を基礎として、実際の介護現場で介護職員の指導のもと利用者にとってよりよい介護方法について学んでいきます。 ①特別養護老人ホームなどの社会福祉施設での実習に対して、主体的に参加し、職員の方から利用者の方一人ひとりに応じた介護技術を積極的に学び、実践しましょう。 ②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。 ③介護福祉士の合格をめざして主体的に家庭学習を行い、単に知識を身に付けるだけではなく、実践的で体験的な学習活動で得た知識や技術を活用して、介護現場の状況に応じた判断力や実践力を身に付けましょう。 ④6月に5日間、7月に15日間の集中授業となります。 ⑤新型コロナウイルス感染症予防対策により、高齢者施設での実習を校内での実習に代替して実施する場合があります。
--

2 学習の到達目標

介護に関する体験的な学習を多様な介護の場において行い、知識と技術を統合させ、介護従事者としての役割を理解させるとともに、適切かつ安全な介護ができる実践的な能力と態度を育てる。
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	多様な介護現場や介護福祉士について関心を持ち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	サービス利用者一人ひとりの生活における諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、介護福祉士として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要な尊厳の保持や自立支援の観点に立った基礎的・基本的な技術を統合し、介護職員の指導のもと根拠にもとづいて安全に支援できる技術を適切に活用している。	サービス利用者一人ひとりの生活や個性を尊重した基礎的・基本的な知識を統合し、高齢者や障がい者の尊厳保持や自立支援による適切かつ安全な介護の基本を理解している。
価 方 法	- 施設実習への参加 - 実習中の態度 - 実習日誌 - 振り返りシート - 施設実習でのカンファレンス	- 介護技術の実践 - 実習日誌 - 振り返りシート - 施設実習でのカンファレンス	- 介護技術の実践 - 実習日誌 - 振り返りシート	- 介護技術の実践 - 実習日誌 - 振り返りシート - 施設実習でのカンファレンス
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	☐ 施設実習(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設 6月5日間)	I 施設実習(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、6月5日間) 1 介護従事者としての身だしなみ・言葉遣いなどのマナーについて	○		○		a:職員の方や利用者の方に対して、挨拶や敬語を用いたコミュニケーションを主体的に図ろうとしている。 c:介護従事者としてのふさわしい身だしなみ、言葉遣いなどのマナーを身に付けている。 d:敬語を用いたコミュニケーションについて理解している。	・施設実習への参加 ・実習中の態度 ・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート
		2 施設の概要や生活支援目標・理念について		○		○	b:実習施設の概要や生活支援目標・理念について理解を深め、工夫している点や重要視している点を考察している。 d:実習施設の概要や生活支援目標・理念について理解している。	
		3 施設の日課について	○		○		a:施設の日課について、興味や関心を持ち、5分前行動を心がけている。 c:施設の日課をふまえて、次の行動を考えて実践できる。 d:施設の日課について理解している。	
		4 介護福祉士の役割について	○	○			a: 介護福祉士の仕事について興味や関心を持って主体的に質問し、介護福祉士の役割について探究しようとしている。 b:介護現場での見学を通じて、介護福祉士の役割について考察し、表現することができる。 d:介護福祉士の役割について理解している。	

※令和3年度以前入学生用

		5 利用者とのコミュニケーションについて		○	○		a: 利用者とのコミュニケーションを主体的に図り、利用者一人ひとりに応じたよりよいコミュニケーション方法について探究しようとしている。 b: 利用者の気持ちを考察し、工夫してコミュニケーションを図ろうとしている。 c: 介護職員の方々が実践する基礎的なコミュニケーション技法を見学し、適切に活用している。 d: 高齢者の趣味や関心に応じた話題を理解している。	
		6 利用者の人権やプライバシーを尊重した介護について		○	○		a: 利用者と主体的に関わり、人権やプライバシーを尊重した介護について探究しようとしている。 b: 利用者の人権やプライバシーを尊重した介護について考察することができる。 c: 介護職員の方々が実践する利用者の人権やプライバシーを尊重した技能を見学し、適切に活用している。 d: 利用者の人権やプライバシーとは具体的にどのようなものかを理解している。	
		7 介護技術の見学・実践について			○	○	a: 介護職員の介護技術について主体的に見学や実践を行い、わからない点は質問し、探究しようとしている。 b: 介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c: 介護職員の方々が実践する利用者にとって安全・安楽な介護技術を見学し、適切に活用している。 d: 特別養護老人ホーム等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的について理解できている。	

※令和3年度以前入学生用

		8 利用者の情報収集の図り方	○	○			a: 担当利用者に興味や関心を持って情報収集を行い、よりよい介護に向けて探究しようとしている。 b: 担当利用者の気持ちを考察し、工夫して情報収集を図ろうとしている。 c: 実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d: コミュニケーションや観察、ケア記録など情報収集の方法を理解している。	
		9 記録の仕方～実習日誌～		○	○		a: 一日の活動を振り返って、最後の行まで記録し、自らの学習内容について探究しようとしている。 b: 介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c: 実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d: 誤字・脱字がなく、実習中の経験や学びが記入できている。	
		10 最終カンファレンス		○		○	a: カンファレンスに参加された介護職員のアドバイスを活かして、2年生の実習に向けてよりよい介護について探究しようとしている。 b: 特別養護老人ホーム等の5日間の実習を通じて、介護技術について「なぜ」という視点を持って考察し、表現することができる。 c: 特別養護老人ホーム等の5日間の実習を通じて、目標としていた介護技術を身に付けている。 d: 特別養護老人ホーム等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的や意義について理解できている。	

※令和3年度以前入学生用

2学期	施設実習(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設 7月 15日間)	Ⅱ 施設実習(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設、7月15日間) 1 介護従事者としての身だしなみ・言葉遣いなどのマナーについて	○		○		a:職員の方や利用者の方に対して、挨拶や敬語を用いたコミュニケーションを主体的に図ろうとしている。 c:介護従事者としてのふさわしい身だしなみ、言葉遣いなどのマナーを身に付けている。 d:敬語を用いたコミュニケーションについて理解している。	・施設実習への参加 ・実習中の態度 ・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート
		2 介護福祉士の役割について	○	○			a:介護福祉士の仕事について興味・関心を持って主体的に質問し、介護福祉士の役割について探究しようとしている。 b:介護現場での見学を通じて、介護福祉士の役割について考察し、表現することができる。 d:介護福祉士の役割について理解している。	
		3 多職種連携について	○			○	a:介護現場で働いている専門職について興味・関心を持ち、特別養護老人ホーム等におけるチームケアについて探究しようとしている。 b:利用者の方を24時間365日支えるためのチームケアについて考察し、表現することができる。 d:介護現場における多職種連携の重要性について理解している。	
		4 利用者とのコミュニケーションについて		○	○		a:利用者とのコミュニケーションを主体的に図り、利用者一人ひとりに応じたよりよいコミュニケーション方法について探究しようとしている。 b:利用者の気持ちを考察し、工夫してコミュニケーションを図ろうとしている。 c:介護職員の方々が実践する基礎的なコミュニケーション技法を見学し、適切に活用している。 d:高齢者の趣味や関心に応じた話題を理解している。	

※令和3年度以前入学生用

		5 利用者の人権やプライバシーを尊重した介護について		○	○		a: 利用者と主体的に関わり、人権やプライバシーを尊重した介護について探究しようとしている。 b: 利用者の人権やプライバシーを尊重した介護について考察することができる。 c: 介護職員の方々が実践する利用者の人権やプライバシーを尊重した技能を見学し、適切に活用している。 d: 利用者の人権やプライバシーとは具体的にどのようなものかを理解している。	
		6 介護技術の見学・実践について			○	○	a: 介護職員の介護技術について主体的に見学や実践を行い、わからない点は質問し、探究しようとしている。 b: 介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c: 介護職員の方々が実践する利用者にとって安全・安楽な介護技術を見学し、適切に活用している。 d: 特別養護老人ホーム等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助など）について、その介護の根拠を理解できている。	
		7 利用者の情報収集の図り方	○	○			a: 担当利用者に興味や関心を持って情報収集を行い、よりよい介護に向けて探究しようとしている。 b: 担当利用者の気持ちを考察し、工夫して情報収集を図ろうとしている。 c: 実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d: コミュニケーションや観察、ケア記録など情報収集の方法を理解している。	

※令和3年度以前入学生用

		8 担当利用者についてのケアプラン作成	○	○			a: 担当利用者の興味や関心を持ち、よりよいケアプラン作成に向けて探究しようとしている。 b: 担当利用者のニーズを考察し、工夫してケアプラン作成を図ろうとしている。 c: 実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、よりよいケアプラン作成に向けて適切に選択し、活用している。 d: 利用者のニーズをふまえたケアプランの作成過程と内容を理解している。	
		9 記録の仕方～実習日誌～		○	○		a: 一日の活動を振り返って、最後の行まで記録し、自らの学習内容について探究しようとしている。 b: 介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c: 実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d: 誤字・脱字がなく、実習中の経験や学びが記入できている。	
		10 最終カンファレンス		○		○	a: カンファレンスに参加された介護職員のアドバイスを活かして、求められる介護福祉士像を探究することができる。 b: 特別養護老人ホーム等の15日間の実習を通じて、介護技術について「なぜ」という視点を持って考察し、表現することができる。 c: 特別養護老人ホーム等の15日間実習を通じて、目標としていた介護技術を身に付け、その介護の根拠を説明できる。 d: 特別養護老人ホーム等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的や意義について理解できている。	

※令和3年度以前入学生用

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。